



自己肯定感を土台に自分で考え、

判断できる子に

新緑がまぶしい季節となりました。心地よい春風が、園庭で遊んでいる子どもたちの元気な声をあたりに運んでゆきます。

入園、進級して一カ月が経とうとしています。初めて保育園で過ごす新入園児さんは、最初のうちは、「おうちのひとといっしょがいいよ～」とばかりに涙を流す子もいましたが、今では少しずつ周りが見えるようになって、お友だちがやっていることやあそびに興味をもったり、保育者や友だちと楽しそうにあそぶ姿が見られるようになりました。子どもたちが「あしたほいくえんで〇〇してあそぼう」と目的を持ち、楽しみにして登園するように、子どもたちと対話を重ねながら、生活やあそび環境を工夫してまいりたいと思っています。

先月は、なかよし参観日、おひさま会総会に参加していただき、ありがとうございました。雨天のため、予定していたお散歩はできませんでしたが、親子で触れ合っただけで遊んだり、子どもが夢中になるあそびを保護者の方も一緒に体験していただく中で、「おもしろい、もっとやってみたい、こうやったらどうなるのかな」など、子どもたちが自ら選び、考え、工夫する姿を間近でみていただけたことと思います。

保育園では子どもの主体性を伸ばすため、「考える、選ぶ、工夫する」体験を大切にしています。乳幼児期は「あそびは学び」の言葉通り、好きなことを選んで考えたり工夫しながら遊んでいます。好きなあそびを満足するまで楽しみながら、少しずつ今までできなかったことができるようになるとそれが自信となり、もう少し難しいことにもチャレンジしようとする意欲につながります。「自分はやればできるんだ、自分は自分のままでいいんだ」という自己肯定感を持てるようにしていくこ

とが大切です。自己肯定感、「自分で考え、判断できる子」になるための最も大切な基礎になるものです。ご家庭でも、お子さんが興味を持っていることや、工夫しようとしていたら、まずは見守りながら、「これが楽しいだね」と共感してあげていると、お家の人が自分の好きなことを受け入れてくれていると感じ、「これでいいんだ」と自己肯定感が育まれていきます。

「人は群れの中で育つ」という言葉があります。これまでは、コロナ禍の中で「人とのつながり」がいろいろと制約を受けてきましたが、5月8日から警戒度が少し緩められることになりました。しかし、コロナ禍は無くなったわけではありませんので、手洗いなど感染防止は続けながら、保護者の皆様との「つながり」を大切に、子どもたちには、自分のことを大切にしながら、友だちのことも自分のこととして捉え、人との関わりの中で、柔軟に心とからだを動かしながら、主体性、集中力を育む保育に取り組んでいきたいと思ひます。

先日も、園庭で夏野菜の苗や種を植えるための土作りをしていると、子どもたちも砂場用のスコップを手に集まってきました。プランターをひっくり返し、古い土を出すと、その中から次々と出てくる幼虫を歓声を上げながら集める子や、何の幼虫なのかを調べたりする子もいました。小さな命に触れたり、知りたいことを調べてみたり、命の大切さについて考えるきっかけになればと思ひました。夏野菜を育てることもまた、命を感じる場面があります。水やりなどのお世話をしないと枯れてしまい、野菜が実ることはありません。実体験の中から、一人ひとりの子どもたちの驚きや感動をしっかり受け止め、対話をしていくことを大切にしていきたいと思ひます。

園長



シュレッターの紙が粘土に？

おもしろいこと
みつけた！

丸めた粘土に絵の具で
色をつけたら・・・

「ひっぱってあげるね」

おいしい野菜ができる土
になるように

ほくも・・・
よいしょ！

命を育てる
「いただきます」
感謝の気持ち

土作り

野菜の苗を
植えました

幼虫集めに
夢中

お誕生日おめでとう



保育園では毎月誕生会があり、その月の誕生日児をみんなの前でお祝いします。自分の名前や「〇〇歳になりました」と言うことが嬉しかったり、恥ずかしかったり・・・お家の方からもメッセージを頂いていますがお子さんの成長を振り返ったり、元気で大きくなって欲しいというねがいが書かれています。

生命の誕生は、生まれた日より10か月も前であることに興味を持ってみましょう。お母さんのお腹の中で過ごした10か月、家族が楽しみに待っていた10か月、そして出産の時のことなどを語ってあげてください。そんな心のふれあいは自分が大切にされ、愛されていると感じ、命の大切さ、自分自身を大切にできる人間になることの基盤になると思ひます。

こいのぼりのお話



鯉は古くから立身出世の象徴とされてきました。中国の故事・伝説から「黄河の上流にある龍門の急流をさかのぼることができた鯉は、龍になって天をかける」と言われ、出世のたとえに用いられるようになりました。日本において鯉が縁起物とされたのは、江戸時代中期といわれています。五色の吹流しは、幼子の無事な成長を願って「魔よけ」の意味で飾られるようになりました。

参照

～鯉のぼりと五色の吹流しのお話～